

全国最悪レベル 1日1万ト 無駄

# 佐世保市が漏水防止策 水道料値上げ受け本腰



市議会本会議で水道料金を約20%値上げする条例改正案が可決されたことを受け、「漏水対策を強化しないと市民の理解を得られない」（水道局）と判断した。

水道局によると、水源の1割に当たる1日約1万トが老朽管などから漏れており、水が漏れないう割合を示す有効率は87%で、全国215の大規模事業体中、203位（2007年度）だ。

水不足に悩む長崎県佐世保市は18日、2010年度から全国の水道事業体で最悪レベルの漏水対策に本腰を入れる方針を固めた。同日の12月定例

新対策の柱は、①漏水箇所を効率的に発見するため、配水管を細かい区画に分けて調査する「小ブロック化」の導入②漏水の7割以上を占めると

される個人所有の給水管を修理の対象とする1の2点。これらの対策を進め、2016年度までに有効率を87%から92%に引き上げたい考えだ。

市はこれまで年間約150回の音聴調査による漏水発見と老朽管の付設替えを中心に年間約8億円かけて漏水対策に取り組んできたが、この20年ほとんど改善されなかつた。

吉村敏一水道局長は「漏水に対する危機意識が組織として足りなかった。今後は計画的に取り組みたい」と話している。

# 水漏れ20年「放置」

## 非効率な調査踏襲

### ずさんな行政浮き彫り

深刻な水不足から、漏水対策を抜本的に見直す方針を固めた佐世保市。平地が少なく水をためにくい地形や貯水量が75日分しかないダムなど、長年水問題に悩まされてきたにもかかわらず、過去20年、1日約1万立方メートルが失われる漏水を事実上放置してきた。ずさんな水道行政が浮き彫りになっている。

#### ■いたちごっこ

午後10時すぎ、寝静まる住宅街。水道局の作業員が道路の水漏れメーターを開け、水道管に金属の音調棒をあてて水漏れを調査する水道局職員



佐世保市の漏水対策見直し

水道管に音調棒をあてて水漏れを調査する水道局職員

せていた。わずかな水音を聞き分け、漏水箇所を発見する「音調調査」。

11人1組の職員が、定期的に市内約15万カ所の水漏れメーターや消火栓を巡回し年間1500回程度行

#### ■旧来型の問題

佐世保市のこれまでの漏水対策はなぜ効果がなかったのか。傾斜地が多

小さな音の変化を見逃さない熟練の耳。担当課職員は「何もしてこなかったわけじゃない。いくらか直してもいたちごっこだった」と苦しい表情を見せた。

大漏水の94年度から2008年度にかけて、市は計約146本の老朽管を替えるとともに、漏水

#### ■個人は対象外

もっと問題なのが、修理対象外の個人所有の給水管だ。水道局の配水管から水を引くパイプだ

11-18カ所を発見して修繕した。計約9億円の投じた。それでも水が漏れない割合を示す有効率は94年度から約80%のままで一向に改善されていない。

#### ■個人は対象外

もった問題なのが、修理対象外の個人所有の給水管だ。水道局の配水管から水を引くパイプだ

長崎市は93年度から個人所有の給水管も本格的に修理している。その調査で見つかった漏水個所の9割程度が個人所有の給水管だという。

#### 過去20年で3回の給水制限

佐世保市は過去20年で3回の給水制限を実施。24年〜25年の大漏水では、43時間の断水など264日間に及ぶ給水制限を行い、2007年〜08年も約4カ月の減圧給水制限をした。

水不足の解決策として川棚町に黒瀬石木ダムが計画されている。総事業費約5000億円のうち、市の負担は約3000億円とされる。



一旦、度重なる断水で市民に節水意識が浸透し、節水効果で水道収入は年間約3億3千万円減少。水道局は減収や設備の老朽化に伴う経費増などを受け、来年度から13年ぶりに水道料金を約2割値上げする。

（佐世保支局・川口安子）

検討されず、調査員が漏水を見つけても工事責任者は個人とされていたため放置されていた。

長崎市は93年度から個人所有の給水管も本格的に修理している。その調査で見つかった漏水個所の9割程度が個人所有の給水管だという。

佐世保市水道局は2008年度からブロック化に向けて事前調査を開始。本年度にはプロジェクトチームを立ち上げて漏水調査の見直しなどを検討しており、個人の給水管も修理対象に加える。

市は最終的には有効率を90%にする目標を掲げており、まずは16年度までに90%まで上げるとしているが、毎年、どのくらい個人の給水管を修理するか、ブロック化をどう進めていくかなど具体的な青写真はまだ明らかにしていない。

もっと水道行政の情態開示を進めないと、15年度に予定している料金改定で市民にさらなる負担を求めている。理解は得られない。



# 「修理・改造」の公共事業を

2019年 西日本

慢性的な水不足に悩む佐世保市。漏水問題を解決すれば水問題は解消されるのか。元東京都水道局職員で水道行政に詳しい遠藤保男・水源開発問題全国連絡会共同代表に聞いた。

—佐世保市は1994年の2604日間におよぶ給水制限など、過去20年で3回の漏水を体験している。

「94年には佐世保市だけでなく、全国的に漏水が起きている。問題は、その後対処だ。90年には漏水率

## 水源開発問題全国連絡会共同代表 遠藤保男氏に聞く

が約12%と佐世保と同程度だった東京都は、漏水対策に力を入れ2008年度には約3%に落ちている」

「一方、佐世保地区は20年たっても12%台のままだ。東京都と同程度の漏水対策を取ってれば、佐世保地区6ダムの貯水量が急激に下がることはなく、約4カ月間給水制限した07年の漏水は防げたはずだ」

—佐世保地区の漏水は全国的に見ても最悪レベルの水率だ。



215事業体のうち、佐世保地区の有効率（給水量と有効水量との比率）は87%

「日本水道協会（東京）の07年度調査を基にする」と、給水人口10万人以上の

で203位、有効率（給水量と料金として収入のあった水量との比率）は84%で201位だ。市民1人当たりの使用量が1日193リットルと少ない方から5位。市民が節水に努めているのに対し、水道局の努力はまったく低いといえる」

—漏水を改善すれば水不足は解消されるのか。

「佐世保市は1日4万リットルが必要と主張しているが、08年度の実績は1人188リットル。17年度には同22

1段に増える予測となっており、積算根拠に説得力がなく過大予測だと感じる。水の使用量は年々減っている。人口減少も予測される。昨年度使われた1日7万6500リットルうち漏水を除くと、実際に使われたのは6万6700リットルだ。漏水をなくせば、安定水源の7万7千リットルで足りるはずだ」

「市水道局は石木ダム（川棚町）建設の前に徹底した漏水対策を優先しなくてはいけない。全国事業体の平均有効率は94%で、16年度に92%という目標自体が低い。『造る』公共事業から『修理・改造』の公共事業へと方針を転換させるべきだ」